

社会基盤学科・専攻 海外夏期インターンシッププログラムに関するアンケート
～集計結果～

調査の概略

本学社会基盤学科／専攻は、2002年度より海外夏期インターンシッププログラムを実施してきた。このプログラムは、多くの学生に海外研究機関での研究体験の機会を提供すると共に、その後の活発な学習・研究活動の促進に貢献してきたと考えられる。

本調査は、これまでの同プログラムを評価し、今後の方向性を検討するために、これまで当学科／専攻の提供するインターンシッププログラムに参加した者を対象とし、プログラムの実績、効果、課題等を把握することを目的とする。

調査の対象者と方法

(1) 対象者

過去の当学科／専攻の提供する海外夏期インターンシップ参加者全員

(2) 方法

記名式アンケート調査。E-mailを用いて調査票を配布・回収する。

(3) 調査実施時期

2006年10月～11月

調査結果総括

1. 過去の実績

本学社会基盤学科／専攻は、2002 年度より海外夏期実習インターンシッププログラムを実施してきた。このプログラムは、多くの学生に海外研究機関での研究体験の機会を提供すると共に、その後の活発な学習・研究活動の促進に貢献してきた。

2006 年度までに当プログラムに参加した実習生は合計 48 名であり、派遣先は、12 カ国 21 機関にのぼる。(表-1 を参照のこと)

表-1：海外夏季実習の派遣先

	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
中国・清華大学	2		1		1
英国・ケンブリッジ大学	2	1		1	1
米国・ノートルダム大学	1				1
米国・コロンビア大学	1	1		1	
米国・ミシガン大学	1	1	1		
米国・オレゴン州立大学		1		1	1
米国・ネブラスカ大学				1	
ドイツ・ダルムシュタット工科大学	2	1	1	1	1
ドイツ・カールスルーエ工科大学		1			
フランス・ENTPE(公共事業大学)	1	1		1	
イタリア・トリノ大学	2	1			
イタリア・ナポリ大学	1	1	1		
イタリア・ピサ大学					1
チェコ・チェコ工科大学		1	1	1	
ポーランド・グダンスク大学				1	
イラン・テヘラン大学				1	
スイス・スイス連邦工科大学					1
ニュージーランド・カンタベリー大学					
韓国・サムソン建設					1
香港・前田建設工業					2
JETRO (マニラ)					1
合計	13	10	5	9	11

2. 実習生の満足度

実習経験者全員が海外実習の経験により「意識の変化」があったと答えており、また、実習経験者の約7割が「海外実習が現在の研究や学習に役立っている」と答えている（図-1）。「アジアの発展を考えると、ひとつひとつの国を知ることがどれだけ難しく、大切なことかを痛感した」、「ある国の社会問題のみならず、日本の国内問題に関して考えるに際して、現場の人たちの声を聞くことを大切にするようになった」といった実習経験者の感想からは、専攻の取り組みが、国際的な視野を持つ人材の育成に一定の効果をもたらしているものと推測できる。

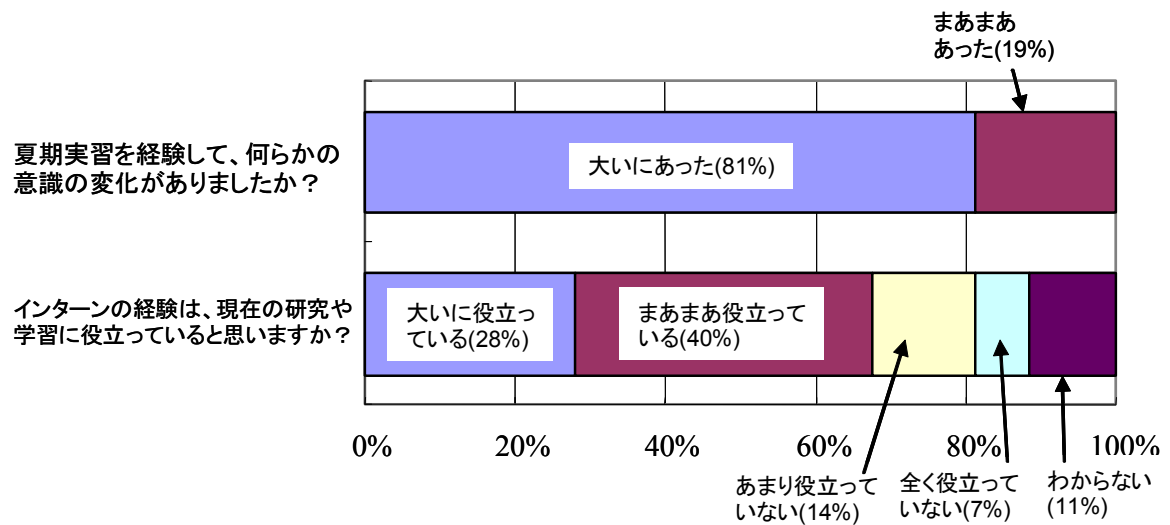


図-1: 海外夏期実習経験者の海外夏期実習プログラムに対する満足度(N=43)

調査結果の詳細

A 回答者の属性

➤ 回答者数 計 43 名

	現在の学年		参加時の学年	
	人数	割合	人数	割合
B3	7	16%	38	88%
B4	8	19%		
M1	6	14%	5	12%
M2	14	33%		
その他	8	19%		

➤ 参加時の所属

Aコース(社会基盤工学)	10	23%
Bコース(社会基盤システム計画)	13	30%
Cコース(国際プロジェクト)	15	35%
各研究室	5	12%

研究室内訳：橋梁（2）、コンクリート、交通、国際プロジェクト

➤ 実習の期間：平均 4.7 週間（最長：8 週間，最短：3 週間）

➤ 受入機関の国／地域

アメリカ	ドイツ	中国	イギリス	イタリア	フランス	チェコ	その他
11	7	6	4	4	3	3	5
26%	16%	14%	9%	9%	7%	7%	12%

その他：韓国・フィリピン・イラン・ポーランド・スイス

*中国は香港（2名）含む

➤ 東大大学院社会基盤学専攻の推薦を受けた者：17/35名中

B インターンシッププログラム全体に関する質問

問 10 インターンシップに対する満足度

1. 大変満足・・・30
2. ほぼ満足・・・11
3. 普通・・・ 2 (B4：テヘラン大学, B4：ネブラスカ大学)
4. やや不満, 5. 非常に不満

問 11 インターン先の決定の際、最も重視した点 (1つ回答)

1. 受入機関の国・地域・・・27
2. 受入機関の実習内容・・・11
4. 受入機関・・・・・・・・ 4
(B3：SAMSUNG, B3：JETRO, M2：前田建設工業, M2：コロンビア大学)
3. 受入機関の担当者, 5. 東大側の紹介教員, 6. その他

問 12 インターンを経験して、何らかの意識の変化がありましたか？

1. 大いにあった・・・35
2. 多少あった・・・ 8
3. あまりなかった, 4. 全くなかった, 5. 分からない

問 13 問 12 で「大いにあった、多少あった」選択者対象

どのような点において意識の変化があったと思われますか？

- ✓ 「海外慣れ、英語慣れ」、「日本の相対視」、「将来（進路）を考えるきっかけ」、「学習効果、海外の学生からの刺激」など

(以下、抜粋)

- 海外慣れ、英語慣れ
 - ・ 文法とか細かいことにあまり気を使う必要がないことに気づいたので、外人と話すときに気負うことがなくなった。(M2：ナポリ大学)
 - ・ 海外でも普通に暮らせることを知った。(M2：ダルムシュタット工科大学)
- 日本の相対視
 - ・ 途上国の人々の産業や発展に対する価値観の多様性に驚いた。(B3：JETRO)
 - ・ 日本という独自性を認識することができた。(M2：コロンビア大学)
- 将来（進路）を考えるきっかけ
 - ・ 土木業で実際に働く方と 24 時間同じ生活をするのは、自分の将来について考え直す

いい機会となりました。(B3: SAMSUNG)

- ・ 実際の海外プロジェクトの現場に行き、海外プロジェクトがどういうものであるか、という認識が変わった。建設業界についての認識もかわった。(B3: 前田建設工業)
 - ・ 研究生活がどんなものかを知ることができ、それが非常に楽しいものであることがわかりました。これまで全く考えていなかった、研究者としての将来を自分の選択肢の一つとして考えるようになりました。(B4: コロンビア大学)
- 学習効果, 海外の学生からの刺激
- ・ 日本にいる留学生のいろいろな苦勞に気づき、今後はもっと彼らに思いやりを持って接しようと思った。(M1: ノートルダム大学)
 - ・ 海外の大学でも自分の力が十分に通用しそうだ、という感触をはっきり得ることができた。(B4: ダルムシュタット工科大学)
 - ・ 中国の学生の真面目さ、必死さを感じ、日本に帰ってから真剣に取り組む意欲がわいてきた。(その他: 精華大学)
 - ・ 学生の発言の積極性に刺激を受け、ゼミなども発言するように努力した。(その他: ケンブリッジ大学)

問 14 インターンの経験は、現在の研究や学習に役立っていると思いますか？

1. 大いに役立っている・・・12
 2. まあまあ役立っている・・・17
 3. あまり役立っていない・・・6
(ダルムシュタット工科大学(M2, その他), テヘラン大学(B4), ネブラスカ大学(B4),
カールスルーエ工科大学(M2), 精華大学(その他))
 4. 全く役立っていない・・・3
(コロンビア大学(M2), ナポリ大学(その他), ENTPE(その他))
 5. 分からない・・・・・・・・・・5
(SAMSUNG(B3), 前田建設(B3), オレゴン州立大学(B3), ケンブリッジ大学(M1),
チェコ工科大学(M2))
- ただし、「5. 分からない」選択の5名中、'06年度参加者4名

問 15 問 14 で「大いに役立っている、まあまあ役立っている」選択者対象

どのような点において役立っていると思われますか？

- ✓ 「勉強, 研究へのモチベーション」, 「視野の拡大」など

(以下, 抜粋)

- ・ アジアの発展を考えるとときに、ひとつひとつの国を知ることがどれだけ難しく、大切なことかを痛感したので、ある国(ベトナムなど)の社会問題のみならず、日本の国内問

題に関して考えるに際して、現場の人たちの声を聞くことを大切にするようになった。

(B3 : JRTR)

- 英語は話せることが前提，という世界へ身をおけることを目標とした英語学習。あまりに乏しい自分の知識を少しでも補おうと，勉学に対する熱意の喚起。(B3 : ETHZ)
- 中国で活躍する建設プロジェクトのプロジェクトマネージャが直面した具体的な問題点を抽出できた。プロジェクトマネージャに技術的スキルと相手の文化に対する理解がいかに必要かが分かった。(B3 : 精華大学)
- 研究の本質的な意義や方法。(B4 : ケンブリッジ大学)
- 卒業論文を書く上での大きなモチベーションとなっています。(B4 : コロンビア大学)
- 英語でのインタビューや資料を読むことにそれなりに慣れることができた。研究のプロセスを一度実践したことは多少役に立ったように思う。(B4 : チェコ工科大学)
- 公共交通に関する比較的専門的な事柄を現地での実習テーマとしたので，それが現在の卒論に結びついている。(B4 : ダルムシュタット工科大学)
- 何事も突き詰めてやるのが大切だと知ったこと。突き詰めるには忍耐が必要だとわかったこと。(B4 : ENTPE)
- 海外実習では自分ですべてをしなければならないので，問題解決能力が高くなったと思う(M2 : グダニスク工科大学)
- 国際学会を牽引している東大教授の姿を見て，研究者はカッコいいな，という印象を持った。研究に対して，プラスの感情を抱いているという点で，役に立っていると感じ。(M2 : ENTPE)
- インターンで御世話になった土質関係のことを勉強したいと思い現在の研究室を選んだことが現在の自分の研究環境を作っているという点で，大いに影響している。インターン時に御世話になった方とは連絡を取り続けており，土質関連のアドバイスをいただくこともある。また，土質の世界は狭く，研究過程で最近のケンブリッジ学生と出会う機会もあり，彼らと会話を共有できるという点も有利だと思う。(M2 : ケンブリッジ大学)
- 留学生との交流に際しての態度に格段の差ができていると思われる。(D1 : 精華大学)
- 実習を通して自分の中に自信が付き，物事を判断する際の芯がその頃からできはじめたと思う。(その他 : トリノ大学)

問 16 応募の際、当インターンシッププログラムに何を期待していましたか？

1. 研究活動の体験・・・10
2. 専門知識・技術の習得・・・7
3. 語学力向上・・・15
4. 異文化交流・・・17
5. 海外生活の体験・・・28
6. その他・・・4

➤ 6. その他の具体例

- ・ JETRO の業務を通して、中小企業が海外進出に望む意義を考えると同時に、途上国に与えるインパクトについて現場を見たかった。(B3：JETRO)
- ・ 大きなプロジェクトが見たかった,就業のシミュレーション (M2：前田建設工業)
- ・ 自分の中の既成概念の破壊 (M2：グダニスク工科大学)
- ・ 自己啓発の絶好の機会になると思った。特にイギリスには昔から興味があった。環境に飛び込めば、他の項目は勝手についてくると思った。(M2：ケンブリッジ大学)

問 17 インターンシップの内容は期待通りのものでしたか？

1. 期待以上・・・17
2. ほぼ期待通り・・・21
3. やや期待外れ・・・4

(SAMSUNG (B3), オレゴン州立大学 (B3), テヘラン大学 (B4), ネブラスカ大学 (B4))

➤ 「3」選択者4名の、問16の選択肢

➤ 語学力向上：4, 海外生活の体験：2, 異文化交流：1, 研究活動の体験：1

4. 全く期待外れ, 5. 分からない

問 18 社会基盤学科・専攻を選択する以前（駒場時代，他大学在籍時）から，当インターンシッププログラムの存在を知っていましたか？

1. はい・・・15（34.9%）

➤ 内訳 B3：4，B4：6，M1：2，M2：3

問 19 問 18 で「はい」選択者対象

本インターンシッププログラムの存在は，当学科・専攻選定の理由と関係がありますか？

1. 大いに関係する・・・8（B3：3，B4：3，M1：2）

2. 多少関係する・・・5（B3：1，B4：3，M2：2）

3. あまり関係ない・・・2（B3：1，M2：1）

4. 全く関係ない，5. 分からない

問 20 インターンシップに行くのは学部生，院生，どちらが適当だと思われますか？

1. 学部生・・・31（B3：3，B4：6，M1：3，M2：10，その他：7）

2. 院生・・・9（B3：2，B4：1，M1：3，M2：2，その他：1）

➤ 選択肢以外の意見

どちらとも言えない・・・2（B3：1，B4：1）

➤ 参加時の学年が M1 の 5 名中，4 名が「院生」と回答

問 21 問 20 に関して，なぜそうと思われますか？

➤ 「学部生」選択者

✓ 海外実習を，海外生活や研究室生活を体験し，広い視野を得る場と捉える意見が多い。
早い段階で視野を広げる方が良いという理由で「学部」を選択している。

（以下，抜粋）

- ・ 卒論を書く前にぜひ体験をしておくべきであるから。（B4：ケンブリッジ大学）
- ・ 時間が長く取れる上，B3の夏というのが一番知識も充実してくる良いころだと思うから。院生では専攻に左右され，行き先が限定されてしまう。（B4：オレゴン州立大学）
- ・ 海外経験を積むのであれば，なるべく若い時代の方が吸収するものが大きいと考えられるため。また，院生だと研究活動などが後回しになってしまう可能性がある。（M2：コロンビア大学）
- ・ 学部生なら，海外大学院に進むという選択肢も増えるから（M2：ナポリ大学）
- ・ 研究室を選ぶ前の学部生が，海外の土木工学を学ぶ人々と触れ合ったり，その組織に身を置くことで見識を深めて，自分の進路選択の参考にすべきだと思うから。学部から本専攻にいる学生は学部のころにチャンスはあったわけだし，院生になってから応募するのはどうかと思う。（M2：カールスルーエ工科大学）

➤ 「院生」 選択者

- ✓ 海外実習を、研究の場と捉えている意見が多い。そう考えた場合、卒論を経験し、知識も充実した院生が行くべきだと考えている。

(以下、抜粋)

- ・ 研究の手伝いをさせていただいた際、専門知識と語学力の不足を大いに感じました。インターンとしてある程度の成果を出すためには、それらの能力が充実した院生が行くのが良いと思いました。(B4: コロンビア大学)
- ・ 院生のほうが、就職や将来の研究活動のことを意識すると思うので、有意義に過ごせると思う。また、実習内容にもよるが、卒論を書く経験を経て多少でも知識や実験スキルなどを身につけていなければ、受け入れ先としてもさせることがなくて困るのではないかな。その結果、実習ではなく単なる旅行的なものになってしまう可能性がある。(M1: ノートルダム大学)
- ・ ある程度土木に関する知識・態度が確立していないと、実務者・研究者と話にならず、単に語学留学・旅行になる可能性がある。面白い話も聞けないし、失礼にもなる。(M2: 前田建設工業)

➤ 「どちらとも言えない」 選択者 (選択肢にはなかったが、敢えて回答)

- ・ 研修・実習内容のレベルの高さによると思う。モチベーションがある人なら学部、院生関係なく行くことが適当だと思う (B3: 精華大学)
- ・ 院生の場合、自らの研究に絡めるなどより専門的に高度で、内容の深い実習が可能だと思うが、学部生、特に3年生にとってもインターンを体験することは、以降の研究や進路などのイメージやモチベーションになるという点で重要な機会だと思う。(B4: チェコ工科大学)

問 22 現在、インターンは夏休み期間中に実施されています。

この時期は当インターンに適切だと思いますか？

1. 適切だと思う・・・39
2. 不適切だと思う
3. 分からない・・・3

➤ 選択肢以外の意見

「論文を書かなくても良い生徒を対象とするならば、冬季、春季もあると良い (M2: ENTPE)」

問 23 あなたのインターンの期間について、最も当てはまるものをお選びください。

1. 長すぎる
2. 少し長い・・・ 4 (平均 5.3 週間, 最長 6 週, 最短 4 週)
3. 妥当・・・ 25 (平均 5 週間, 最長 8 週, 最短 3 週)
4. 少し短い・・・ 12 (平均 4.2 週間, 最長 6 週, 最短 3 週)
5. 短すぎる・・・ 2 (平均 5 週間, 最長 6 週, 最短 4 週)

問 24 その期間を他の事に費やして、より有効に活用できたかもしれないと後悔すること
はありますか？

1. はい・・・ 3
2. いいえ・・・ 39
3. 分からない・・・ 1 (B3 : SAMSUNG)

問 25 問 24 で「はい」選択者対象

なぜそう思われますか？具体的に説明してください。(抜粋)

- ・フィールド演習には3年次で参加しておいた方が happy でした。(B4 : テヘラン大学)
- ・部活を1ヶ月間休んで参加しました。その後、調子を取り戻すのに時間がかかり、シーズンが終わってしまった。(M2 : ENTPE)

➤ 問 24 「いいえ」回答者の意見

「ただし、実習内容が自分で計画するものであったため、現地での時間をより有効に活用すべきであったと思う。(B4 : チェコ工科大学)」

C インターンの選考・プログラム参加前の準備に関する質問

問 26 選考方法の満足度を記入して下さい

1. 大変満足・・・・・・・・ 8
2. ほぼ満足・・・・・・・・16
3. 普通・・・・・・・・17
4. やや不満・・・・・・・・ 1 (M2：前田建設工業)
5. 非常に不満・・・・・・ 1 (B3：ETHZ)

問 27 選考方法は妥当でしたか？

1. 妥当である・・・・・・・・24
2. 妥当でない・・・・・・ 2 (B4：ネブラスカ大学, M2：コロンビア大学)
3. 分からない・・・・・・17

問 28 インターンの経験を踏まえて、今後のインターン選考の際に、最も重視すべきと思われる項目を「1つ」お選びください。

1. 当プログラムへの意欲・・・・・・・・31
2. 英語運用能力
3. インターン先での実習計画・・・・ 8
4. 専門知識
5. 海外滞在経験・・・・・・・・・・・・ 1 (ただし全ての項目を重視すべき)
6. その他・・・・・・・・・・・・・・ 3

➤ 6. その他の具体例

- ・ 自分で物事を見て判断できる人。(その他：トリノ大学)
- ・ その人の性格や能力を見て、先生方が直感で決めていいと思います。実習のビジョンや行きたい理由がよほどはっきりしていれば別ですが。(その他：ENTPE)

➤ 問 26 で「4. やや不満」, 「5. 非常に不満」の選択者はそれぞれ, 「1. 当プログラムへの意欲」「3. インターン先での実習計画」を選択

➤ 問 27 で「2. 妥当でない」を選択の2名は, 「1. 当プログラムへの意欲」を選択

問 29 参加前に行われた、学科・専攻による英語授業は役立ちましたか？

1. 非常に役立った・・・・・・・・・・ 4
2. まあまあ役立った・・・・・・・・・・26
3. あまり役立たなかった・・・・・・ 8 (B3：1, B4：2, M1：1, M2：2, その他：2)
4. 全く役立たなかった・・・・・・ 1 (B3：ETHZ)

5. 分からない・・・・・・・・・・ 1 (B4: テヘラン大学)
6. 英語授業を受けていない・・・ 3

問 30 渡航の際、ビザの手配は必要でしたか？

1. はい・・・ 7
- 中国 (4), イラン, イギリス, フィリピン

問 31 問 30 で「はい」選択者対象

ビザの種類を教えてください。

1. 観光・・・ 5
 2. 学生・・・ 1 (イラン)
- 無回答・・・・ 1 (中国: おそらく観光ビザ)

問 32 受入機関において、特別な手続は必要でしたか？

1. はい・・・ 9

問 33 問 32 で「はい」選択者対象

どのような手続きでしたか？

- ✓ 学生登録, 住居関係など

(以下, 抜粋)

- ・ 受入機関の学生登録 (銀行残高証明, 在学証明, その他いくつかの書類) (B3: ETHZ)
- ・ 研究員としての入学手続き (B4: ケンブリッジ大学)
- ・ 奨学金を受けるためだと思うが, 一通りの書類提出など. (M2: チェコ工科大学)
- ・ 学生証を作ったり, 入居する部屋の手続きをしたり, といった簡単なもの. (M2: ケンブリッジ大学)
- ・ 大学寮の入寮手続 (その他: 精華大学)

問 34 インターンの経験を踏まえて, 参加前に準備しておくべきと思われる項目を「1つ」お選びください。

1. 英語運用能力・・・・・・・・・・ 12
2. 現地語運用能力・・・・・・・・・・ 5
3. 現地の一般的な情報・・・・・・・・ 5
4. 専門知識・・・・・・・・・・ 2
5. 実習計画・・・・・・・・・・ 13
6. 受け入れ機関に関する情報・・・ 4
7. その他・・・・・・・・・・ 2

➤ 7. その他の具体例

- 物価水準を事前に調べておく必要があった。イギリスは日本の2倍近く、経済的に大変苦勞した。(M1:ケンブリッジ大学)
- 現地で友人になった人から日本について色々なことを質問されたが、そのたびに答えに困ったので、日本の文化、慣習、宗教 etc.についてよく勉強していったほうがいいと思う。(M2:カールスルーエ工科大学)

D インターンシップに対する学科・専攻のサポートに関する質問

問 35 現在のサポート体制には満足ですか？

1. 大変満足・・・17
2. ほぼ満足・・・17
3. 普通・・・・・・ 7
4. やや不満・・・ 2 (B4, M1：共にケンブリッジ大学)
5. 非常に不満

問 36～39 現在のサポートへの必要性に関する質問

- 旅費へのサポート：「一部サポート（5割）」が1名
 - ✓ M2：チェコ工科大学（奨学金 35,000 円程度の支給あり）
- 保険へのサポート：「サポート不要」が3名
 - ✓ B3：ETHZ, M1：ノートルダム大学, 前田建設工業
 - ✓ ちょっとサポートしすぎ。旅費のみサポートでほかは自己責任, その分人数を増やしたほうがいいと思う。(M1：前田建設工業)

問 40 航空券を学科・専攻側で手配することは必要ですか？

1. 必要・・・・・・17 (39.5%)

問 41 学科・専攻から手配した旅行保険以外に、何か保険に加入しましたか？

1. クレジットカード付帯保険に加入・・・・14
2. 「1」以外に加入・・・・・・4 (香港, ポーランド, スイス, アメリカ)
3. 特に加入していない・・・・・・25

問 42 旅費, 保険費を含めて, 学科・専攻がサポートすべきと考えるものを自由に記入してください。

- ✓ 大別して, 「現状で問題ない」, 「情報提供」, 「滞在費, 現地交通費等の補助」, 「その他, 提案」となる。

(以下, 抜粋)

- 現状で問題ない
 - ・ 向こうでの宿泊費は安く済ませられるので必要ないかと思います。(M2：コロンビア大学)
 - ・ 必要最低限でいいと思う。(M2：トリノ工科大学)
 - ✓ 約半数が現在のサポートに満足している (無記入又は特になし等の回答：23名)

➤ **情報提供**

- ・ 過去の海外夏季実習の参加者との交流会が実習前にあつたら、よかったかもしれません。(B3：精華大学)
- ・ 受け入れ先の実習内容について事前にもう少し情報があるといいと思う。(B3：オレゴン州立大学)
- ・ 金銭的面より、知識面. 指導教官に教科書を紹介していただいて、非常に助かりました。(B3：スイス)

➤ **滞在費，現地交通費等の補助**

- ・ 一定額を超える場合の現地滞在（宿泊）費補助（B4，M1，M2：ケンブリッジ大学，B4，その他：ダルムシュタット工科大学，M1 ミシガン大学）
- ・ 現地での宿泊施設の斡旋（B4：ネブラスカ大学，その他：ミシガン大学）
- ・ 資金がない学生にも格段の配慮をお願いしたい。余裕がないと参加できないのはかわいそう（B4：テヘラン大学，M2：グダニスク工科大学）
- ・ 滞在先が大学寮やホームステイの場合はサポートの必要はないが，アパート等に滞在しなければならない場合には半額位サポートした方が良くと思う。(M2：ダルムシュタット工科大学)
- ・ 現地での長距離移動の際の交通費（M2：精華大学）

➤ **その他，提案**

- ・ ちょっとサポートしすぎ。旅費のみサポートでほかは自己責任，その分人数を増やしたほうが良いと思う。(M2：前田建設工業)
- ・ 個人的には，学科が手配した場合の航空券代を生徒に補助して，生徒自身が，自分で航空券を手配できるとよいと思います。(安くすませられるので) (M2：ミシガン大学)

E 現地での生活に関する質問

問 43 現地での滞在場所は次のどれに当てはまりますか？

1. 大学の宿舎・・・10
2. 民間の宿舎・・・ 8
3. 学生寮・・・・・・15
4. ホテル・・・・・・ 6
5. その他・・・・・・ 6

➤ 5. その他の具体例

- ・ 交換留学生のアパート（ダルムシュタット工科大学,）
- ・ 「教授（助手）の家でホームステイ」：4
（ダルムシュタット工科大学, ネブラスカ大学, ナポリ大学（2））

問 44 一ヶ月あたりの居住費用を記入してください（単位：日本円）。

➤ 一ヶ月家賃の平均：約 57,500 円

（最高：20 万円（その他：ケンブリッジ大学），最低：0 円）

問 45 滞在場所の満足度を教えてください。

1. 大変満足・・・18
2. ほぼ満足・・・16
3. 普通・・・・・・ 8
4. やや不満・・・ 1（家賃 8 万円，実習先まで徒歩 30 分（B4：ケンブリッジ大学））
5. 非常に不満

問 46 滞在場所は「誰が」、「どのように」決定しましたか？

✓ 基本的に、受入機関が事前に決定している。実習生が受け入れ機関と E メール等で協議しているものもある。その他、ホームステイなど。

（以下、抜粋）

- ・ JETRO の推薦したホテルが学生には高額だったので、もう一度探していただいた結果に同意した。（B3：JETRO）
- ・ 私が寮での滞在を希望したため、受け入れ先の教授が空いているゲストハウスを探してくれて、決定した。（B3：オレゴン州立大学）
- ・ 受入先機関の秘書の方が、大学が留学生に紹介している宿舎の中から探してくださいました。（B3：ETHZ）
- ・ どうしても、住む場所が見つからなかったため、教授が家の一室を貸してくださいました。（B4：ネブラスカ大学）

- ・ 受け入れ先の教官から大学の宿舎をいくつか提示され、ホームページを見て自分で決めた。(M2: チェコ工科大学)
- ・ 先方の研究室の研究員の方と、ルームシェアしました。(M2: ミシガン大学)

問 50 あなたは現地で携帯電話を所持していましたか？

1. はい・・・・・・・・・・18
 2. いいえ・・・・・・・・・・24 ('04年度以降: 5)
 3. 答えられない・・・・・・1
- 所持を薦めているのは'04年度以降

問 51 問 50 で「はい」選択者対象

滞在中の、携帯電話にかかった費用を記入してください(単位: 日本円)。

- 平均約 19,000 円 (最高: 70,000 円, 最低: 0 円 (受入機関から貸与))

問 52 現地での物価に関して、あなたの感覚に最も近いものを選択してください。

1. 非常に高い・・・・・・1 (イギリス)
2. やや高い・・・・・・15 (アメリカ, イギリス, フランス, ドイツ, スイス)
3. 日本と同程度・・・・・・9 (イタリア, アメリカ, フランス, ドイツ)
4. やや安い・・・・・・8 (韓国, 香港, ポーランド, アメリカ, ドイツ, イタリア)
5. 非常に安い・・・・・・10 (中国, フィリピン, イラン, チェコ, イタリア)

問 53 週末の過ごし方を教えてください。

- ✓ みな、自由に観光を楽しんでいる。受入機関の教官や友人らと出かけるケースも見られる。その他、実習課題のキャッチアップなど。

(以下、抜粋)

- ・ レポート執筆・資料読み、現地人の友人と交流、市内観光 (B3: JETRO)
- ・ ロンドンまで行って観光したり、ケンブリッジ内でサイクリングしたりして過ごしました。(M1: ケンブリッジ大学)
- ・ 列車で片道3時間ほどのシカゴに小旅行あるいは現地でできた友人と買い物や食事。受け入れ先の先生のご家族と一緒に車で1時間半ほどのところにあるミシガン湖に連れて行ってもらったこともあります。(M1: ノートルダム大学)
- ・ 名大から同様にインターンに来た院生と一緒に、ライン川やハイデルベルクなどの近隣の観光地に出かけたり、一人でワイマールなどの「世界遺産巡り」をすることが多かった。(B4: ダルムシュタット工科大学)
- ・ 日本で鉄道パスを購入していき、週末は主にフランス国内を旅行していました。受け入れ先の学生が市内を案内してくれることもありました。(B4: ENTPE)

- ・ 「地球の歩き方」や現地で知り合った人の情報を頼りに、ドイツ国内をひたすら旅行。宿泊は安いユースホテルで。(M2:ダルムシュタット工科大学)
- ・ 受け入れ先の教官の家族と過ごしたり、学生と過ごしたり。一人で市内を観光したこともある。(M2:チェコ工科大学)
- ・ 一週間ごとに移動が重なったこともあり、週末として意識して動いたことはなかった。(D1:精華大学)
- ・ 公共交通機関を利用して他の都市へ行って観光した。近くの競技場へ行き現地の人と体を動かした。(その他:ダルムシュタット工科大学)

問 54 現地滞在中に何かトラブルに巻き込まれましたか？

1. はい・・・3

問 55 問 54 で「はい」選択者対象

どのようなトラブルでしたか？

- ・ 財布(クレジットカード)を紛失(M1:ミシガン大学)
- ・ ニセ警官。二人組みで一方が写真を撮ってくれと近寄り、その場に他方が警官を装って現れ所持品を検査、金目のものを奪ったりカードの暗証番号を聞きだしたりしようとした。幸い何も奪われず脱出し、事なきを得た。当国ではよくある手口らしいが、大学周辺であったためあまり警戒していなかった。(B4:チェコ工科大学)
- ・ バスの中で電子辞書を盗られました。(B3:精華大学)

問 56 現地での生活において、あなたのサポートをしてくれた人は誰ですか？(2つ選択)

1. ホスト教員・・・・・・・・・・ 31
2. 学生(日本人以外)・・・・ 30
3. 日本人学生・・・・・・・・・・ 7
4. 日本人(学生以外)・・・・ 8
5. その他・・・・・・・・・・ 4

問 57 現地生活全般についての満足度を教えてください。

1. 大変満足・・・28
2. ほぼ満足・・・12
3. 普通・・・・・・ 3
4. やや不満, 5. 非常に不満

問 58 現地生活中の問題, 困ったこと, 感想など, 自由に記入してください。

✓ 大別して, 「治安の問題」, 「現地語の問題」, 「食事の違い」, 「気候の変化」など。

(以下, 抜粋)

- ・ 現地の気候についてきちんと調べていなかった。9月に入ってから急に寒くなり, 持参した衣類では到底間に合わなかったが, 残りの滞在期間を考えると買うのも無駄かと悩み, 寒さに耐えながらすごした。(M1: ノートルダム大学)
- ・ 物価が高すぎて物が買えない。(B4: ケンブリッジ大学)
- ・ 日本と生活スタイル(働き方, 余暇の過ごし方)に大きな違いがあり, 非常に感銘を受けた。(午後6時には研究室から皆帰る, 休日は商店が全て閉まり市民は公園等で過ごしたり野外オペラを観たりして過ごす等)(M2: ダルムシュタット工科大学)
- ・ 滞在していたゲストハウスは市内から遠く, 周辺の治安も良くなかったため, 平日の午後の過ごし方に困りました。(B4: ENTPE)
- ・ 学校と, その寮がある場所の治安が比較的悪く, 何度か, チンピラにからまれた(M2: ENTPE)
- ・ ナポリは情緒あふれる町で, インターン先として非常にお勧めですが, 私が行った当時は治安が悪かった(M2: ナポリ大学)
- ・ それまでの人生で食事に関して贅沢を言うことはあまりなかったが, イギリスでは食事が全般的に不味いと思った。ホームシック等にはならなかったが, 滞在3週目以降はいつもコンビニやおにぎりのことが頭に浮かび, そのために早く帰国したいと思うことが多々あった。自炊できる準備をしておけばもっと余裕を持てたと思う。(M2: ケンブリッジ大学)
- ・ 到着した日がちょうど日曜日で, 商店が全て閉まっていたので食料調達に困った(M2: ダルムシュタット工科大学)
- ・ 洗濯機も台所も無く, 生活水準が低かったです。(その他: ENTPE)

F 現地での実習に関する質問

問 59 現地ではどのような研究・教育活動に参加しましたか？

- ✓ 「実験補助」が多数。その他、「現場見学」、「自由研究」、「インタビュー調査」など
(以下、抜粋)
- ・ ストーンカッター橋の現場と下水道処理場の現場に滞在。課題を与えられ、インタビューなどを行い、課題を完成させた。(B3：前田建設工業)
 - ・ 通商広報への調査レポート執筆，情報処理試験の研修・普及，現地自動車部品企業への生産指導，工業団地視察，労務セミナー (B3：JETRO)
 - ・ 統計を使った交通調査のデータ処理。(B3：ETHZ)
 - ・ FEM 解析ソフトを使用したケーススタディ。コンクリート梁の解析数種。(M1：ノートルダム大学)
 - ・ チェコの実験政策についての調査。(B4：チェコ工科大学)
 - ・ "Darmstadt Traffic Guide"という，ダルムシュタットの交通施設を紹介した研究室用小冊子の作成と，自分の興味に応じたもの(公共交通・トラム)調査の2つ。(B4：ダルムシュタット工科大学)
 - ・ probability paper についての論文要約及び probability paper を用いたデータ整理。(B4：ネブラスカ大学，M1：ミシガン大学)
 - ・ 私の担当学生の実験の手伝いという形で，実験準備などに携わりました。(M2：コロンビア大学)
 - ・ 歴史的景観の保存についてのフィールドワークと現地学生との意見交換，レポートの作成 (M2：チェコ工科大学)
 - ・ 建設中の三峡ダムの現場を見てくる。(D1，その他：精華大学)
 - ・ 国際会議開催の手伝い(その他：精華大学)

問 60 現地での研究・教育活動は「誰が」、「どのように」決めましたか？

- ✓ 「受け入れ先で事前に決定されていた」が多数。その他、「受入機関と相談して決めたケース」、「自分で課題を設定し，指導していただいたケース」、「ほぼ自分ひとりでこなしたケース」など。
- (以下、抜粋)
- ・ 事前の希望により，技術移転を中心に JETRO 業務を一通り調査したいと申し出，職員がスケジュールを組んだ (B3：JETRO)
 - ・ 自分が関心を持っているテーマを，指導教員と相談して決定した。このテーマに関してプロポーザル，および研究計画を書き，アドバイスをもらった。(B4：チェコ工科大学)
 - ・ 自分の希望のテーマを伝え，具体的な活動については教官と相談して決めた。(M2：チェコ工科大学)

- ・ 自分の面倒を見てくれていた学生が、自分との面談と、その後の進行を見ながら徐々に決めてくれた。(M2:ケンブリッジ大学)

問 61 実習先へはどの程度通っていましたか？

1. 週 6 回以上・・・8
2. 週 4～5 回程度・・・29
3. 週 2～3 回程度・・・5

(M2:ダルムシュタット工科大学, チェコ工科大学, ナポリ大学, トリノ工科大学, その他:ダルムシュタット大学)

4. 週 1 回以下・・・1 (M1:ダルムシュタット工科大学)

問 62 現地の学生や教員との研究・教育上の交流はどの程度行われましたか？

1. 週 6 回以上・・・7
2. 週 4～5 回程度・・・25
3. 週 2～3 回程度・・・9

(B4:チェコ工科大学, テヘラン大学, M1:ナポリ大学, ノートルダム大学, M2:ダルムシュタット工科大学, ナポリ大学, トリノ工科大学, グダニスク工科大学, その他:ミシガン大学,)

4. 週 1 回以下・・・2 (B3:オレゴン州立大学, M1:ダルムシュタット工科大学)

- 特記事項として, B3:オレゴン州立大学の実習生は問 61 で「2. 週 4～5 回程度」を選択したにも関わらず, 問 62 では「4. 週 1 回以下」を選択している。

問 63 現地での実習は, 新しい考え方や, 問題解決方法の獲得に役立ちましたか？

1. 大変役立った・・・17
2. まあまあ役立った・・・15
3. あまり役立っていない・・・7

(B4:テヘラン大学, M1:ナポリ大学, ミシガン大学, M2:トリノ工科大学, その他:ミシガン大学, トリノ工科大学, ENTPE)

4. 全く役立っていない・・・2 (B4:ネブラスカ大学, M2:ナポリ大学)
5. 分からない・・・2 (B3:ダルムシュタット工科大学, B4:チェコ工科大学)

G 受入機関に関する質問

問 64 受入機関の対応の満足度を教えてください。

1. 大変満足・・・29
2. ほぼ満足・・・10
3. 普通・・・・・・ 3
4. やや不満・・・ 1 (M1：ダルムシュタット工科大学)
5. 非常に不満

問 65 受入機関の対応に問題があるとするれば、それはどのようなものですか？

- ✓ 受入機関の準備不足へのクレーム多数。その他、「滞在場所の問題」、「学生との交流上の問題など」

(以下、抜粋)

- ・ どの程度放置されるかだと思います (B3：SAMSUNG)
 - ・ 実習内容をもう少し充実させられたかもしれない。(B3：精華大学)
 - ・ 受け入れ態勢が全く整っていない。「好きにしてい」いわれた。(M1：ダルムシュタット工科大学)
 - ・ ゲストハウスでの滞在はテレビや冷蔵庫もなく、交通アクセスもあまり良くなかったの
で不便でした。受け入れ先でもそれは認識していて、市内や周辺の公園などへ車で連れて
行ってくれたりしてくださいました。(B4：ENTPE)
 - ・ 学生との交流機会がほとんど無かったため、もっと学生と交流がしたかった。(M1：チ
ェコ工科大学)
 - ・ 学生がほとんど英語を話さなくて、コミュニケーションが取れなかった。(M1：ナポリ
大学、その他：トリノ工科大学)
- ✓ 一方で、このような意見も見られた
 - ・ 全く問題なしでした。むしろ研究室立ち上げの忙しい折に、あれだけ緻密に計画をたて
て受け入れてくださったことに感謝するばかりです。(D1：精華大学)
 - ・ 対応に問題はない。問題があるのは研修生側。しっかりしたモチベーションと知識、忍
耐がなければ研究をこなせない。(B3：ETHZ)

問 66 受入機関の提供してくれたサービスにはどのようなものがありましたか？

- ✓ 各種事務手続きやパーティ、食事のお誘い、宿の紹介、実習内容の提供など
- ✓ 変わったものとして、奨学金(チェコ工科大学)や給料支払(前田建設工業)

(以下、抜粋)

- ・ 業務内容の説明や、それぞれの分野に関するレクチャー、現地情報の提供や、アポイントメントの確保など (B3: JETRO)
- ・ 先生が週末ご家族と一緒にミシガン湖に連れて行ってくださったり、食事に連れて行ってくださった。(M1: ノートルダム大学)
- ・ 最初のころに町の案内をしていただいた。研究室旅行と一緒に連れて行っていただいた。スポーツや BBQ などのイベントに参加させていただいた。(その他: ダルムシュタット工科大学)
- ・ 宿泊施設の斡旋。イタリア語教室への参加。(M2: トリノ工科大学)
- ・ 関係者以外、普通は立ち入ることの出来ない建設現場に入り、目の前で様子を見ながら企業の通訳の方による日本語の説明を受けることが出来ました。学生、企業の方は非常に親切に接してくださいました。(その他: 精華大学)
- ・ 中国語家庭教師手配、現地で世話してくれる人の手配 (その他: 精華大学)
- ・ 住居・携帯等生活費提供・一日 3000 程度の給料支給・送迎 (M2: 前田建設工業)
- ・ 奨学金 (35000 円程度) をいただいた。(M2: チェコ工科大学)

問 67 受入機関における事務的な対応者、その他サポートしてくれた人は誰ですか？ (2 人選択)

1. ホスト教員・・・・・・・・・・ 28
2. 大学職員 (ホスト教員以外)・・・ 7
3. 学生 (日本人以外)・・・・・・・・ 21
4. 日本人学生・・・・・・・・・・ 16
5. その他・・・・・・・・・・ 4

➤ 5. その他の具体例

- ・ 受け入れ先企業の職員
- ・ 大学の助手、秘書さんなど

問 68 受入機関への謝金に関して、謝金を支払う上で、何か困ったことやトラブルはありましたか？

1. はい・・・・・・・・・・ 3
2. いいえ・・・・・・・・・・ 28
3. 支払っていない (先方が辞退)・・・ 12

問 69 問 68 で「はい」 選択者対象

具体的にどのような問題でしたか？

- まず、口座振込みでなければ受け入れられないと言われ、cash 拒否。そして口座間の transfer じゃなければ駄目だと言われたが、当然現地の口座を持っているわけもなく、国際間の transfer となると相当面倒。なんとか郵便振込みで勘弁してもらいました。
(B3 : ETHZ)
- 学生の面倒を見るのは大学職員として当然のことなので、お金を受け取るのは本意ではないと拒否された。(M1 : ノートルダム大学)
- 支払ったものの結局自分たちのために(余った分はバイト代などとして支給)使ってくださったので結局謝金になったのか疑問 (D1 : 精華大学)

H 最後に（その他，感想等自由記入欄）

問 70 その他，インターンシッププログラム全体に対する意見・疑問・要望・感想など，自由に記入してください。（抜粋）

- ・ 企業でのインターンシップであり，大変有意義でした。（B3：前田建設工業）
- ・ 今後の海外実習において，大学以外のJETROなどの機関や企業での学問外の業務インターンを推奨すべきである。（B3：JETRO）
- ・ 友人と話していて感じるのは，受入先によって満足度が全然違う．やらせてもらえること，サポートの度合いが異なるためだ．実習先との事前の連携を深くし，こちらも向こうもより準備するべきだと考える．そのためには，具体的な実習計画の作成が有効だと考える．（B3：ETHZ）
- ・ 今年，ドイツに行った折にダルムシュタットに寄ったが，相変わらず快く迎えてくれて非常にうれしかった．インターンを通して，自分自身に自信を持つことができ，さらに見聞も広まって大変有意義だった．強いて言うならば，提示される規則があまりに研究よりも思われる．種々の文化遺産などを見て歩くことも非常に有意義だと思うので，もう少しルール上の自由度を増してもよいのではないかと思う．いずれにせよ，とても有意義な経験ができる制度なので，ぜひとも，今後も継続してほしい．（B4：ダルムシュタット工科大学）
- ・ せっかく珍しい，真逆の文化を持ったテヘランにチャンネルがあり，自分が先鋒で切り開いたのに，後続のインターン生が現れない現状は極めて遺憾です（笑）．特に国Pの学生は，米国や欧州などの「快適空間」ではなく，なるべく途上国に近い環境に身を投じるべきだと思います．チェコ，ポーランド，イラン，或いはその他の「非G8」を選ぶよう，学生を煽っていただきたい．（B4：テヘラン大学）
- ・ とても有意義でした．今後の学生のためにもこういった活動が続くことを期待しています．また，こういった活動は国際Gだけにとどまらず，むしろそういった機会の少ない，他のグループの学生に活用していただけるよう格段の配慮をねがいたい．（M2：グダニスク工科大学）
- ・ 海外経験を積ませることを目的としているのであれば，大変有意義なプログラムであると思います．実際私も，1ヶ月という期間を海外で生活することで，海外に対する慣れ

と新しい価値観に触れることができました。ただ、研究活動を目的とするのであれば、お世話になったのは今の研究室とは全く関係のない土質系の研究室でありましたので、その後の生活に経験が生きてきているかという点に対しては疑問を抱きます。(M2：コロンビア大学)

- 本プログラムのかかなりの自由放任さは素晴らしいと思いますので、今後もぜひ、現状を貫き、続けていってもらいたいと思います。自由放任さからくる苦勞もありますが、同時に「海外でも自分はサバイバルできるという自信（もちろん周りの人からのサポートは受けますが）」を持たせてくれると思います。なので、現状の過不足ないサポートと自由さを維持したままプログラムを続けていただければいいなと思います。(M2：ナポリ大学)
- それまで生きてきて、自分がやりたいと漠然と感じていたことが、自分が動くことにより次々に実現していきました。インターン学生を募るに当たり、「誰もが」「平等な条件で」このような体験をすることができることを保障していただきたいし、それをメッセージとして強く学生に伝えていただきたいです。最近では学科の学生の成績が高いようですが、成績が機会を束縛してしまうことができる限り起こらないよう望みます。これは選ぶ側も選ばれる側も意識していただきたいです。最後に、このプログラムが永続することを願っております。(M2：ケンブリッジ大学)
- 向こうからも学生を受け入れることができれば相互に交流ができていいと思います。(M2：コロンビア大学)
- 選考において最も重要なのは、コミュニケーション能力（英語力ではない）とやる気だと感じた。私にとっては非常に有意義な体験だったので今後も一人でも多くの後輩の皆さんに体験してほしいと思う。国際コースだけではなく、入ってから行きたいと思った人にも選考を受けさせてあげればよいと思う（今すでにそうなのかもしれません・・・）（その他：ミシガン大学）
- 携帯電話の所持を薦めているというのは初耳でした。おそらく安全面の配慮と思われるのですが、現地の人とのコミュニケーションの機会も増えるし、僕は賛成です。ただ、携帯を持つことで、うまく言えませんが、「日本」を捨てきれなくなるというか、実習の意義を損なう要因にもなりえるので、現地での携帯の普及具合などで、ケースバイケースで判断すべきかと思います。(その他：ENTPE)